

2021 年度  
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾  
麻生情報ビジネス専門学校

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、（麻生情報ビジネス専門学校）の2021年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2022年 1月 31日

校 長 瀧口 博俊

自己点検・評価責任者

校長代行 北原 聡

### 目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像） .....	- 3 -
II	重点項目 .....	- 6 -
III	基準項目 自己点検・評価 .....	- 7 -
	基準 1 教育理念、目的、育成人材像 .....	- 7 -
	基準 2 学校運営 .....	- 8 -
	基準 3 教育活動 .....	- 9 -
	基準 4 学修成果 .....	- 14 -
	基準 5 学生支援 .....	- 15 -
	基準 6 教育環境 .....	- 17 -
	基準 7 学生募集 .....	- 19 -
	基準 8 財務 .....	- 20 -
	基準 9 法令遵守 .....	- 21 -
	基準 10 内部質保証 .....	- 22 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献 .....	- 23 -
	基準 12 国際交流 .....	- 24 -

### 評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

# I 教育理念・教育目標（育成人材像）

## 教育理念

1. 変化する情報化社会において、体系だった幅広い知識と専門分野の高い技術を持った社会人を育成します。
2. 知識や技術を最大限に発揮するための「人間力」を高めるために、思いやりと自立心を育成します。
3. 豊かな人間性と社会で必要とされる知識・技術を備えた人材を育成し、社会の発展に寄与します。

## 教育目標（育成人材像）

### 情報工学科

#### 【高度 I T システム専攻】

プログラマ実践力、システムの設計能力、エンジニアとして必要なコミュニケーションスキルに加え、IT サービスの企画提案ができるエンジニアを育成する

#### 【高度ネットワーク・セキュリティ専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた大規模な IT インフラストラクチャの設計、構築、運用技術を修得すると共に、企業で必要となるセキュリティ技術を修得する。さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

#### 【A I & I o T 専攻】

A I を適用した実用的な I o T システムの企画から構築、効果検証を行う技術を修得する。画像や音声、言語及び各種センサーからのデータを解釈して動作に活用する一連のシステムを開発できるエンジニアを育成する。

#### 【電子システム工学専攻】

ハードウェアとソフトウェアを適切に組み合わせた高信頼性システムの企画から構築までをチームで行う知識と技術を修得し、車載ソフトウェアやロボット制御の開発に対応できる組込みシステムエンジニアを育成する。

## 情報システム専攻科

### 【システムエンジニア専攻】

プログラマ実践力に加えて、システムの設計、構築ができ、お客様やチーム内エンジニアとの仕事において必要なコミュニケーションスキルを持ったエンジニアを育成する。

### 【ネットワークエンジニア専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた IT インフラストラクチャの設計、構築、運用技術を修得する。さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

### 【AI エンジニア専攻】

IoT 環境の構成要素を理解し、AI システムの実装方法を修得する。画像や音声、言語の認識技術を活用するとともに、機器の制御ソフトウェアを開発できるエンジニアを 育成する。

### 【電子システムエンジニア専攻】

基礎的なハードウェア知識を持ちながらソフトウェアの設計からテストまでをチームで行う知識と技術を修得し、自動車、家電、複合機、医療機器、通信機器などの電子機器の制御ソフトウェア開発に対応できる組込みシステムエンジニアを育成する。

## 情報システム科

### 【プログラミング専攻】

プログラマとしての実践力とチーム開発で必要となるコミュニケーションスキルを持ったエンジニアを育成する

### 【ネットワーク専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた IT インフラストラクチャの構築、運用技術を修得する。さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

### 【AI プログラミング専攻】

AI の種類や特徴、及び適用領域の知識を持ち、機械学習を中心とした AI の仕組みを理解し、AI システムのプログラミングができるエンジニアを育成する。

### 【電子システム専攻】

組込みプログラミングの技術を持ちプログラムの実装ができる知識と技術を修得し、自動車、家電、複合機、医療機器、通信機器などの電子機器で動作するプログラムを開発できるエンジニアを育成する。

## 国際ITエンジニア科

知識のみならず運用力の伴った日本語力を身に付けるとともに、日本企業で求められるビジネスコミュニケーションスキルを身に付けることで、日本国内外におけるITシステムを活用した業務の効率化とITシステムの開発に貢献できる人材を育成する。

## ビジネスエキスパート科

企業内で一般的に使用されているパソコンのソフトウェアを全般的に使いこなし、指導・教育担当者として必要なプレゼンテーション、インストラクション、コミュニケーション能力を身に付けることで、社会で情報活用のリーダーシップを発揮することができる人材を育成する。

## 情報ビジネス科

Microsoft社のOffice製品を総合的に使いこなし、事務処理の効率化を図るとともに、効果的プレゼンテーションが出来るスキルを身に付ける。さらに、社会人としてのマナーを備え、即戦力して対応できる人材を育成する。

## 経営ビジネス科

販売・営業・経営に関する知識を総合的に修得するとともに、現場での実習を通して実践力を養うことで、企業の収益を支える販売・営業のプロフェッショナルおよび将来的に起業も出来る人材を育成する。

## 経理科

情報化が進むビジネス社会で生き抜くために必要な簿記・会計・税法に関する専門的な知識をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力を養い、即戦力として幅広く活躍できる人材を育成する。

## 国際ビジネス科

知識のみならず運用力の伴った日本語力とともに、日本企業で求められるビジネスコミュニケーションスキルを身に付け、日本国内外で活用できる人材を育成する。

## 日本語科

日本の高等教育機関で学ぶのに必要な日本語を身に付け、多文化共生社会の一員として様々な文化を背景に持つ人々と支え合い、協働できる人材を育成する。

## Ⅱ 重点項目

### 1. 重点項目

- ① コロナ禍においても、教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育を継続し、教育の質の向上にも取り組む。
- ② 教育の質の維持、向上のため、新任教員の援助、育成を強化する。

### 2. 取組み状況

- ① 学生にPCを貸し出す等の環境整備を行うことにより、緊急事態宣言等の下記期間は、全学生に対して遠隔授業を実施した。 2021年 5月6日～6月18日、9月13日～10月8日  
また、上記以外の期間も、対面授業と遠隔授業を組み合わせを行い、感染拡大を防止するとともに、必要な時には完全遠隔授業へスムーズに移行できる体制を維持している。  
その間に、教員の間では、遠隔授業の手法に関する情報の共有を、チャットやビデオ会議によって、さらには、動画教材を作成することによって行い、遠隔授業の質の向上に取り組んでいる。  
また、今後の遠隔授業の可用性と質を高めるために、教材のデジタル化に取り組んでいる。
- ② 下記の施策により、新任教員の援助、育成を強化している。
  - ・チューター制度の効果的な運用
  - ・顧問による、新任教員の面談、授業見学とアドバイス
  - ・録画による、先輩教員の授業の見学
  - ・録画による、新任教員の授業の見学（チューターや上司が見学しアドバイス）

### 3. 総括（成果と課題）

- ① 緊急事態宣言などの際にも、休講することなく、ほぼ予定通りに授業を継続することが出来た。  
また、陽性者発生などによる急な閉館などの際にも、ほとんど休講することなく、遠隔で授業を継続することが出来た。  
また、対面の方が教育効果が高いと思われる授業は、感染が落ち着いている時期に、対面主体で授業を行うことによって、対面で実施することが出来た  
さらに、各種の取り組みによって、教員の遠隔授業に関するスキルは高まっており、コロナ禍においても、教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育が継続出来ていると判断している。  
今後は、教材のデジタル化など、コロナ禍後の世界に対応した教育手法の確立に努めていきたい。
- ② 2020年11月入社 of 1名を含め、新任教員が7名在籍しているが、全員、授業力やクラス運営能力は順調に高まって来ており、学生アンケート等にも問題はない。このまま、2年目も成長して行けるよう、フォローは継続していきたい。

### Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

---

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

---

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人の教育理念は明文化し、麻生専門学校グループのホームページにて公表している。本校の理念や目的および育成人材像は、法人の理念を基に展開しており、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表している。また、これらは学生便覧に掲載し、教職員および学生に周知するとともに、学生に対しては、グローバルシティズンベーシック教育（GCB教育）を通して、麻生塾の学生としてふさわしい態度や考えの指導に取り組んでいる。

【課題】

毎年、新しい教職員が増えている中で、教職員に対して、さらに浸透させる工夫をして行く必要がある。

【今後の取組み】

節目節目で、学生便覧をもとに、全教職員で教育理念等の読み合わせを行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

学校の運営方針に沿った事業計画を策定し、教務会議にて全教職員に共有した。また、アクションプラン管理表を作成し、各項目の担当者が進捗状況を記入することにより、進捗状況を共有、管理している。運営は、週に1回のリーダー会議（管理職、リーダーが参加）と月に1回の教務会議（全教職員が参加）において、状況の確認と対策の協議を行うことによってPDCAサイクルを回している。

学生への一斉連絡、授業アンケート、体調管理票等は、Microsoft Teams上で自動化することによって、業務の効率化を図っている。また、学校には事務長を配置し、学校の事務全般を支援している。事務職員も、教員同様、計画的に研修に参加してもらい、資質の向上に努めている。

【課題】

遠隔授業やテレワークに即した効率化をさらに進めて行く必要がある。

【今後の取組み】

日々更新される、Microsoft Teams等のソフトの情報を注視し、利用できる機能を活用して効率化に取り組む。

また、業務そのものも、遠隔授業やテレワークに向けた方法や流れに、柔軟に変更して行く。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	A
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S



基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を定め、学生便覧に掲載することによって、教職員および学生に周知している。また、これらは、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページに掲載し、社会に公表している。

また、3つのポリシーを含む教育課程全般の検証のために、教育課程編成委員会を、コロナ禍においても、対面またはリモートにて年2回実施した。教育課程編成委員会にて頂いたご意見は、カリキュラム会議で協議した後、カリキュラムに反映させている。

【課題】

3つのポリシー、特にカリキュラムポリシーは、時代とともに変化して行くものであるため、検証および見直しを継続して行く必要がある。

【今後の取組み】

教育課程編成委員会および学校関係者評価委員会において、毎年提示し、検証および見直しを行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

カリキュラムは、教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程編成委員会における意見を踏まえ、カリキュラム会議で検討し、更新している。実践的な職業教育の視点に立った教育内容が提供できているかを確認するため、i コンピテンシ ディクショナリに基づく学生アンケートも実施している。科目毎のコマシラバスも毎年更新し、教師間で共有し、各シラバスに実施状況の記録を残す事で整合性の確認を行っている。

キャリア教育は、就職実務やGCB等の授業、企業講演会やインターンシップ等により、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の習得・育成を促している。

リメディアル教育としては、今年度から次年度入学生全員に対するフォローアップ教育を、実施している。

【課題】

入学前のリメディアル教育は充実して来たが、多くの在校生が、進級後に前年度までの学習内容を忘れてしまっているという問題があるため、進級後のリメディアル教育にも取り組む必要がある。

【今後の取組み】

前年度授業の録画、PowerPoint等のデジタル教材を利用することにより、進級後にリメディアル教育を受けられる仕組みを検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	A
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

授業の評価については、法人の教育推進グループが事務局となり、管理職、リーダーが主体となって、前期終盤と後期終盤に授業アンケートを実施している。また、より短い周期で改善を図るために、校長代行の指示の下、Microsoft Teams 上での Forms によるアンケートを適宜実施している。

模範となる授業は、録画して教職員の共有フォルダーに置き、全教職員がいつでも参考に見られるようにしている。

新任教員に関しては、対面、オンラインともに、授業のリアルタイムでの見学や録画による見学によって、チューターや上司、顧問、校長等によるアドバイスを実施している。

オンライン授業や、動画を利用した対面授業などについては、教員間で情報共有したり、動画教材を共有したりすることにより、日々改善を図っている。

【課題】

これまで、授業録画データの蓄積はあまりないため、まだ、参考動画が少ない。

【今後の取組み】

参考となる授業録画を増やし、見やすいように整理し、全教職員に情報共有する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

成績評価、単位認定、進級・卒業判定については、学則及び各規定を定め、学生便覧に記載することにより、学生、教職員に周知している。また、各科目の評価基準については、シラバスに記載し、学生、教職員に周知している。これらに基づき、成績評価を適切に行っている。

成績表については、複数教員でダブルチェックを行い、評価、入力に間違いのないようにしている。

【課題】

オンライン授業に適した成績評価法を検討する必要がある。

【今後の取組み】

現時点では、対面で行われるペーパー試験が中心的な評価方法だが、それに加え、オンラインでも実施可能な評価方法の確立に取り組む。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

法令の則り、かつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮した上で、必要な教員組織を構築している。教員採用時には複数回の面接及び模擬授業を実施し採否の判断を行っている。採用後も指導担当者(チューター)を配置して OJT を行うことにより、指導力の向上、組織への順応を促している。加えて、今年度は、Ⅱ 重点項目 に記載した、新任教員の育成強化策を実施している。

授業、クラス運営等、日常の業務は、カテゴリー(分野)ごとのグループに分かれ、管理職やリーダーを中心に運営を行っている。そのグループ内や学校全体で、資質向上のための情報共有や人材の育成を行っており、企業等が実施する、専門分野の実務能力や学生に対する指導力を向上させるための研修には、計画的かつ積極的に参加させている。

【課題】

教員への応募者が減っており、採用に苦労している。

【今後の取り組み】

数年先の採用を考えて卒業生に声をかけるなど、中期的な採用活動を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	A
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

就職率は、毎年 99%前後の高い成果を上げており、内容的にも多くの学生が業界優良企業に就職している。また、検定試験の取得率も、福岡県でトップクラスの成果を上げている。

就職率、検定取得率、退学率等の目標数値は、事業計画にて年初に全教職員に周知している。各クラスの進捗状況は、毎月、クラス運営報告にて報告し、週に 1 回の就職部会、グループ会議、リーダー会議、月に 1 回の教務会議や、適宜開催される検定担当者会議にて、結果の分析および改善策の策定を行っている。

卒業後は卒業生が就職した企業に対する調査にて、卒業生の就業実態を確認している。

【課題】

個人情報保護法の施行以来、卒業生の調査が難しくなっている。  
コロナ禍の影響が、今後就職等に与える影響が、まだ見えていない。

【今後の取組み】

2020 年度に、Forms を利用したアンケートを、卒業生が就職した企業に対して初めて実施した。この結果を踏まえて、2021 年度には改良版の同様のアンケートを実施する。

企業側の状況を常に情報収集し、企業側の変化に対し、迅速に柔軟に対応して行く。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	A

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

麻生専門学校グループには、グループ各校をサポートする学生支援グループ、就職グループ、国際交流センター、教育推進グループおよび広報部が設置されており、留学生を含む全学生の修学支援、進路支援を行っている。

担任は、学生や保護者との面談を適宜行っており、必要に応じて管理職等も同席している。また、面談の内容は、業務用システムの中に記録し、学校全体で共有している。

留学生や社会人、障がい者も受け入れており、即戦力としての人材育成指導を行いつつ、外部団体（就労支援団体、行政書士等）とも連携して就職までの指導支援を行っている。

経済的支援としては、特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び無償化認定等、各種支援制度を準備し多くの学生が活用している。

就職支援に関しては、キャリアサポートセンターを設置し、専門職員による就職指導を行っている。企業インターンシップにも積極的に参加できるよう情報を提供し、参加を促している。また、卒業生に関しては就職担当者及び教員が協働し、更なるキャリア支援（就職相談や再就職斡旋）も実施している。

学生の課外活動支援では、学内の部活動として、野球、テニス、サッカー、バスケットボール等が各種大会上位を目指して活動している。

生活環境への支援において、直営寮・提携寮を完備しており、寮監を配置し、定期的に学生の様子を報告してもらう仕組みを構築している。

【課題】

留学生・障がいがある学生に関する指導方法・法令等は、まだナレッジやノウハウが不足している

【今後の取組み】

行政機関や外部団体（就労支援団体、行政書士等）とも連携し、障がいがある学生（潜在者含め）及び留学生の指導に関するナレッジやノウハウを蓄積、共有していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	A
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A



基準 6 教育環境

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

施設、設備については設置基準を遵守し、かつ教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育に必要なものを整備しており、適正に管理している。設備整備に関しては業務推進グループと連携し、年度毎に教室見直し及び設備の補充・修繕を行い環境の維持に努めている。今年度は、新型コロナの感染防止のための設備や、オンライン授業のための設備を、特に拡充した。

図書室は、麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、総合図書館を設置している。

【課題】

オンライン授業のための基幹設備であるネットワーク環境をより拡充する必要がある。

【今後の取組み】

今年度中にネットワーク環境の改善工事に取り掛かる予定であったが、世界的な半導体不足で次年度にずれ込んだ。次年度は、確実に改善出来るよう、業務推進グループとしっかり連携して取り組みたい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

インターンシップ(学外実習)時には条件記載の文書を基に、誓約書の作成を義務化している。インターンシップ(学外実習)実施前には、事前教育のためのマニュアルを整備し安全管理を含めた指導を行っている。この2年間は、オンラインでのインターンシップが増えている。

安全対策に関しては防災、防犯設備の点検や避難経路の掲示、避難訓練の実施を行い、教員への周知徹底を図るとともに、学生の登下校及び学校生活における事故に備えて、保険の加入を義務化している。また、昨今の災害発生時や感染症発症時の緊急連絡網の設備についても整備し運用実行を行っている。

新型コロナの感染防止のため、学生に対しては Microsoft Teams 上の Forms を利用した家庭での健康チェックを毎日実施している。また、学生が登校時の検温を確実に行うよう、登校時には教職員が玄関に立って指導している。

【課題】

特に問題はないが、新型コロナの感染防止対策は、ウィルスの特性や国の方針などを注視し、効果的かつ効率的になるよう改善を重ねて行く必要がある。

【今後の取組み】

感染防止対策は、健康チェックや検温等の直接的な対策に加え、オンライン授業の比率を高めたり、いざという時にすぐにオンライン授業に切り替えたり出来る体制を整えて行きたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッションポリシー(学生の受け入れ方針)を策定し、募集要項に記載すると共に、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表して、受験者に周知している。また、学生便覧にも記載し、学生および教職員に周知している。

就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果は、パンフレットやホームページに正確に記載し、社会に公表している。

学生募集については広報部を中心に、教務や就職グループも加わって、アドミッションポリシー(学生の受け入れ方針)に基づいた、オープンキャンパス等の募集活動を適切に行っている。

入学選考については、学生支援グループと広報部を中心に、教務や就職グループも加わって、アドミッションポリシー(学生の受け入れ方針)に基づいた入学者選抜を、入試実施マニュアルに沿って公正かつ適切に行っている。

学生納付金等については、法人の財務状況などを考慮しながら適切な校納金や入学金の設定を行っている。教材費については、各学科のカリキュラムに合致した教材等を教務で協議し、妥当性、透明性を確認して決定している。

【課題】

新型コロナ禍のため、来校してのオープンキャンパス等が実施できないことが多く、教育成果等が正確には伝わっていないものと思われる。対策に取り組む必要がある。

【今後の取組み】

教育成果等を正しく効果的に周知するための方法を検討し、その方法を利用して教育成果を正しく伝えて行く。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	A
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	A
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

学校の管理、運営体制については、経営企画グループと経理グループが中心となり、予算計画を作成している。また、学校年度収支については、月次での予実管理を実施し、収支バランスの管理を行っている。

私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しており、財務情報はホームページにて公開を行っている。財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。

監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

特に課題はないが、月次での予算実績の管理を継続していく。

【今後の取組み】

予算・実績の数値管理を経営企画部と協働して、月次予算実績の継続管理を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

法令、専修学校設置基準については、人事グループ(法務担当)・教育推進グループ等と協議し、職業実践専門課程及び文部科学省専門課程認定校の基準と併せ遵守している。また、校地・校舎・講義室・実習室等の面積についても同様の取り組みを行っている。その他の法令の遵守については、人事グループ(法務担当)の支援を受け、想定されるリスクやその対応方法等を法人全体と共有している。

関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程は人事グループ(法務担当)・教育推進グループ等と協力して整備しており、電子文書および印刷物によって教職員に共有し、適切に運用している。

【課題】

新型コロナウイルスの流行により、国からの暫定的な通達等が頻繁に出ているため、対応して行く必要がある。

【今後の取組み】

人事グループ(法務担当)・教育推進グループをはじめ、グループ校とも緊密に情報交換を行い、国や県からの伝達を見逃すことのないよう、確実に対応して行く。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準 10 内部質保証

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営について、Microsoft Teams 上の Forms を利用して、全教職員で自己点検・評価を実施している。その結果を踏まえて、組織的に改善に取り組んでいる。

また、職業実践専門課程の基準を基に、学校関係者評価委員会を開催し、教育に関する検証を行っている。2021年度は7月7日に、2020年度の学校運営に関する評価をしていただいた。指摘事項については随時改善に取り組み、評価委員へ報告を行っている。評価結果は、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表している。

【課題】

昨年度から、コロナ禍のため、対面とオンラインを併用して学校関係者評価委員会を開催している。この形態は、コロナ禍が収束しても、遠隔地の委員のために継続する可能性が高いため、オンラインで参加している委員ができるだけ快適に参加できるようにする必要がある。

【今後の取組み】

使用するソフトや機器の選定、準備、リハーサルなどを前もって行い、オンラインで参加する委員がストレスなく意見を言えるようにしたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

高校における専門分野の特別授業や、キャリア教育に関する特別授業などに、講師派遣や来校対応で協力している。

学生のボランティア活動は、例年推進しているが、昨年度と今年度は、コロナ禍のため、ほとんどボランティア活動が出来ていない。そのような中でも、麻生専門学校グループの留学生会が主催して実施した学校周辺地域の清掃活動には、本校の留学生も参加した。

【課題】

通常環境に戻り次第、ボランティア活動の再開を行っていく。

【今後の取組み】

コロナ禍が収束次第、博多区等、外部から学校へ案内があるボランティア活動を中心に、学生へ積極的参加を促す。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A

=====

基準 1 2 国際交流

=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生については、国際交流センター、学生課と協力し、また本校内にも取次ぎ申請者を置くことにより、留学生の相談に対応するとともに、受入れ、在籍管理等において適正な手続きを執っている。麻生専門学校グループの法人としては、行政書士と包括契約を行い、留学生の受入に関するリーガルナレッジを共有している。

海外教育プログラムとしては、グローバルな視点での知見を身に着けることを目的に、一部 4 年生課程において海外研修旅行を行っているが、2021 年度はコロナ禍の影響で実施することができなかった。また、麻生専門学校グループとしても、経営企画グループが中心となり、海外留学プログラムを実施しているが、こちらも 2021 年度はコロナ禍の影響で実施できなかった。

【課題】

留学生の就職については、日本での就職を、より確実に出来るよう支援して行く必要がある。

【今後の取組み】

留学生の就職については、最近、国の制度も頻繁に変更されるため、制度変更をしっかりと把握する共に、留学生を採用していただける企業の開拓を進めて、留学生の就職支援を強化する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S